

## 保護司国際研修に参加して

神戸保護観察所 保護司 福住 美壽

平成27年度第2回保護司国際研修に参加しました。この研修に参加する機会をいただきありがとうございました。

昨年11月神戸保護観察所から参加の知らせをいただき、十分な理解もなしにいまま12月に発表の資料の提出となり、テーマの『社会内処遇における多機関連携』の事例検討について神戸保護観察所の主任官とアジ研のご親切で的確なご指導により、なんとか提出することができました。しかし、同時通訳での発表とお聞きし、英語力のなさもあり、震え上がる思いでした。

前の週は沖縄県や九州地方にも雪が積もったり、凍結などの報道もあり、交通機関の心配をしながら新幹線に乗りました。後で毎年この研修の時期は雪の心配をする・・・と聞き、やっぱり今年も・・・と妙な納得をしました。

府中駅からアジ研までの道路脇に雪が残っており、先週はずいぶん積もったんだなあとタクシーの窓から見ました。アジ研到着時、優しく丁寧なお迎えをしていただき恐縮しましたが、この対応は研修終了まで続きました。不安にさせない行き届いた数々のお心遣いや、優しい言葉かけをありがとうございました。

初日は沖縄、北海道など全国から参加の保護司9名が事例・活動発表をし、それに対して第162回国際高官セミナーの参加者との質疑応答、フリーディスカッションを行いました。ヘッドフォンを着用しての同時通訳による会議は初体験でしたが、国際研修の雰囲気はひたり、他の保護司さんの発表時は楽しく聞きました。自分の時は同時通訳のことなどすっかり忘れ、早口になって通訳さんにご迷惑をおかけしたのではないかと赤面する思いでした。

フリーディスカッションではそれぞれの国の実態をお聞きし、国は違っても抱える問題は同じなんだなあと思いました。

夕食時にはタイやケニアの高官と席が近く、互いの国の天候や衣服、そして日本の雪の話で盛り上がりました。その後の懇親会では各国の高官の皆さんと親しくお話をできる環境にありながら、私の英語力の未熟さからたどたどしいご挨拶に終わってしまい、法務省関係の国内参加者に通訳をしていただきなんとか会話することができました。「貴女は社会に貢献する取り組みをしているが家族はどのように協力してくれるのか?」「すべての活動をボランティアですること異議はないのか?」など質問を受けましたが、家族の理解や協力がなくては活動は続けられないこと、地域の人々との協調も大切だと思っていることもオロオロしながらお伝えしました。若いときにもっと英語を学んでおくべき

だったと悔やみました。

夕食後のパーティーでは、「マツケンサンバ」や沖縄の踊りなどのおもてなしやカラオケを楽しんだ後、最後に手をつなぎ輪になり「We are the world」を高らかに唄いみんなの心と心のつながりを感じました。

今回の研修で日本の保護司さんとの新たな出会いがありました。この出会いを大切にし、互いの心と心の交流の輪を静かに大きく広げていきたいと思えます。アジ研の関係者の皆様はもちろんのこと、心を寄せていただきました多くの関係者の皆様に心からお礼を申し上げます。また、早々にタクシーチケットをお送りくださいました全国保護司連盟様にも御礼を申し上げます。

この研修に参加できたことは保護司として大変光栄なことだったんだと改めて感じ今後の活動を通して私も地域の中で多くの組織や人々とつながり、犯罪予防や防止に努力してまいりたいと思えます。